

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 30 日現在

機関番号：32688

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520087

研究課題名(和文) 海外における日本神話研究の歴史とその現代的意義の再検討

研究課題名(英文) History of Research on Japanese Mythology in Foreign Countries and Reevaluation of Japanese Mythology in the Contemporary World

研究代表者

松村 一男 (Matsumura, Kazuo)

和光大学・表現学部・教授

研究者番号：70183952

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円、(間接経費) 1,080,000円

研究成果の概要(和文)：日本神話は戦前の軍国主義教育に利用された後遺症として、戦後は初等教育はもちろん大学においても学術的研究は行われてこなかった。しかし他の国々では人類文化史の重要な要素として神話を研究することが分子生物学をはじめとする諸科学との協同の中で目覚ましい成果を挙げている。その中に日本神話も位置づける目的で本研究は行われ、他地域の神話との比較によって日本神話が世界文化史上極めて重要な、日本が世界に誇ることが出来る文化遺産であることを示すことが出来たと考えている。日本神話は世界の始まりから王権の成立までの一連の流れを体系として保存しているが、それは文字使用の遥か以前からの古形に由来すると考えられる。

研究成果の概要(英文)：Before the Pacific War, Japanese mythology was taught in schools for ideological purpose. Due to such wrong usage, after the war, study and education of Japanese mythology has been avoided not only in schools but also in universities. The advancement of mythological studies in other countries however has been quite remarkable: collaborating with other branches of sciences such as archaeology, genetics and phylogeography, comparative mythology is now an important field for the reconstruction of human history. Working together with mythologists of other countries, we introduced the latest stage of research in Japanese academia through publication and at the same time emphasized the cultural importance of Japanese mythology for world culture. Japanese mythology preserves the ancient common mythological structure remarkably well. It deserves more serious collaborated research in Japan, too. Our research we hope, could be the first step toward a such larger project.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・宗教学

キーワード：日本神話 神話 世界神話学 現代 意義 比較研究 学際的研究 人類史

1. 研究開始当初の背景

(1) グローバル化の進行にともない、日本神話も日本文化を代表するコンテンツとして、国内外で大きな注目を集めている。そのため日本神話に関する学術性や信頼度の高い情報、わけても外国語によるものの提供は急務である。しかし海外においては太平洋戦争以前の古い日本神話研究が依然として紹介されている場合も散見する。こうした状況では海外における日本神話研究者との積極的な交流、新旧の研究成果の体系的な収集と分類、それぞれの研究のもつ意義の学術的な位置づけ、そして必要があれば旧来の研究の訂正とそれに代わるものの提示を国内外に対して積極的に発信していくことが必要と考えた。

(2) 本研究では明治期から現在にいたるまでに行われてきた海外における日本神話研究について、研究視点、日本をとりまく国際状況や情報環境などを総合的に考察した研究史の構築を目指すための準備作業を行った。そうした包括的な視点からの海外における日本神話の研究史はこれまで編まれていない。従来海外における日本神話研究を体系化し、かつ現在の神話学における日本神話の位置づけを検討する作業は、今後の神話学一般の展開にも資すると考える。

2. 研究の目的

(1) 本課題に取り組む準備として、研究代表者の松村は、2010年の国際宗教学宗教学史世界会議(IAHR)において Western Impact on Study of Japanese Mythology と題する発表を、また同年の日本宗教学会第69回学術大会においても発表「日本神話研究における欧米研究者の貢献」を行い、近代から現代までの欧米研究者による日本神話研究について概観を行った。

(2) 研究分担者の平藤も、同様の問題関心のもと、2006年度より2008年度まで科学研究費補助金を研究課題「外国人による日本神話研究の歴史とその影響に関する研究」若手研究(B)で取得し、特に明治期の外国人研究者による記紀の翻訳と神話学の関係、およびその後の海外の日本研究への影響を調査、研究したが、同研究はチェンバレンなどの明治期の研究者に重点が置かれており、その後展開した日本神話研究については取りあげなかった。しかし、海外における日本神話の研究はその後さまざまな地域で展開しており、現在もフランスでは神話学者のフランソワ・マセとアラン・ロシェが共同で古事記、日本書紀のあらたなフランス語訳に取り組み、ドイツではクラウス・アントーニが古事記のドイツ語訳を2013年に出版し、スペインでも2012年に古事記のスペイン語訳が刊行されている。そのほか欧米以外にも韓国やロシア、インドなどでも日本神話研究が進んでいる。また、チェンバレンの翻訳発表後、

その当否について日本で議論されたり、また近年韓国で古事記の翻訳を行なった魯成煥が、その成果を日本でも講演や研究発表などで公開するなど、翻訳が日本の神話研究に与えた影響も小さくないと考える。そこで翻訳および国内外でのその影響について、体系的に分類し、それぞれのもつ意義を学術的に位置づけ、日本語だけではなく英語でも発信していくことが、国際社会に向けて日本神話の文化的意義の理解を深めるために必要であると認識し、今回の研究課題に取り組んだ。

3. 研究の方法

(1) 本課題では、明治期から現在にいたるまでに行われてきた海外における日本神話研究について、研究視点、研究者が置かれていた時代状況、学問状況、日本をとりまく国際状況や情報環境などを総合的に考察し、その成果を体系化し、意義を明らかにしようとした。

4. 研究成果

(1) 3カ年の研究期間内に、下記の調査、研究を行った。

両名は海外における日本神話研究の現状に関する調査を、地域を限定せずに広汎に情報を収集し、現状の把握に努めた。

主として平藤が、19世紀から現代までの古事記の翻訳状況について調査した。現在までに古事記は少なくとも14カ国語に翻訳されていることが確認された。英語やイタリア語は、複数回翻訳されている。そこで翻訳が行われる背景について、翻訳者の問題意識や研究視点、日本とその国との交流のあり方などを総合的に研究した。英訳についてはチェンバレンとフィリップイ、そしてアストンの日本書紀の翻訳を比較し、時代背景に加え日本における上代語の研究成果が各人の翻訳に強く影響を与えていることがわかった。またイタリア語については、宗教学者のラファエル・ペッタツォーニ、神父のマリオ・マレガ、日本文学の研究者であるパオロ・ヴィラーニの翻訳を比較し、それぞれの専門分野、あるいは宗教観と翻訳との関係を検討した。これらの調査結果はデータベース化しており、今後さらに内容を精査し、インターネットで公開する予定となっている。

両名は、19世紀以降の海外の神話学者による日本神話への言及について調査し、神話学の学説史の流れのなかで、日本神話研究の意義がどこにあったのかを考察した。また現代の神話学における日本神話の位置づけについて研究した。

上記 ~ の研究をとりまとめて成果を出版した。これについては松村が代表として主として行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計11件)

松村一男「罪と罰という神話体系：オリエンと旧約聖書」篠田知和基編『神話・象徴・

図像 I』楽瑠書院、2011、85 - 93
松村一男「罪なき罰? : 自然災害の神話」篠田知和基編『罪と贖罪の神話学』楽瑠書院、2012、313 - 322

Kazuo Matsumura "Japanese Mythology in the *Kojiki* as World Mythology", 篠田知和基編『神話・象徴・図像』楽瑠書院、2012、21 - 34

松村一男「印欧語族の死後世界観」篠田知和基編『異界と常世』楽瑠書院、2013、85 - 98

松村一男「英雄神話の諸相」篠田知和基編『神話・象徴・図像 3』楽瑠書院、2013、67 - 80

平藤喜久子「岡正雄を読み直す 現代の神話学から」ヨゼフ・クライナー編『日本民族学の戦前と戦後 岡正雄と日本民族学の草分け』東京堂出版、2013、211 - 224

平藤喜久子「外国人が見た古事記」『國學院大學研究開発推進機構紀要』第 5 号、2013 年、92 - 78

Kikuko Hirafuji, "Colonial Empire and Mythology Studies: Research on Japanese Myth in the Early Shōwa Period", in *Kami Ways in Nationalist Territory Shinto Studies in Prewar Japan and the West*, Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften, 2013, 75 - 107

松村一男「人はいかにして神話学者となるか」市川裕編『世界の宗教といかに向かい合うか 月本昭男先生退職記念献呈論文集 第一巻』聖公会出版、2014、260 - 283 .

松村一男「日本神話研究史における農耕起源神話」篠田知和基編『神話のシルクロード』楽瑠書院、2014、261 - 272

松村一男「神話は誰が運ぶのか」篠田知和基編『神話のシルクロード』楽瑠書院、2014、309 - 322

〔学会発表〕(計 12 件)

松村一男「日本神話研究史の諸問題」日本宗教学会第 70 回学術大会(関西学院大学、兵庫) 2011

Kazuo Matsumura, *Fire and Water: Heroic Initiation in the Myths of Natural Catastrophes*, 5th Annual International Conference on Comparative Mythology, U. of Strasbourg, 2011

Kazuo Matsumura, *Japanese Mythology of the Kojiki as World Mythology*, 6th Annual International Conference on Comparative Mythology, European University, Russia, 2012

松村一男「江戸時代の災害の語り」日本宗教学会第 71 回学術大会(皇學館大学、三重) 2012

平藤喜久子「岡正雄を読み直す 現代の神話学から」『宗教と社会』学会第 20 回学術大会(長崎国際大学、長崎) 2012

平藤喜久子「記紀が描く罪と災害」日本宗教学会第 71 回学術大会(皇學館大学、三重) 2012

平藤喜久子「はじまりとよみがえりの神話学」伊勢国際宗教フォーラム第 6 回年次大会「宗教と環境～時と場のよみがえり～」(皇學館大学、三重) 2012

Kazuo Matsumura, *Warriors & Wanderers: Two Aspects of Heroic Mythology*, 7th Annual International Conference on Comparative Mythology, U. of Tuebingen, Germany, 2013

Kikuko Hirafuji, *Deities in Japanese Popular Culture*, 7th Annual International Conference on Comparative Mythology, U. of Tuebingen, Germany, 2013

松村一男「ファシズム期の非イデオロギー的宗教研究」日本宗教学会第 72 回学術大会(國學院大學、東京) 2013

平藤喜久子「ファシズム期と日本神話」日本宗教学会第 72 回学術大会(國學院大學、東京) 2013

Kazuo Matsumura, *Heroic Sword God: A Possible Eurasian Origin of Japanese Mythological Motif*, 8th Annual International Conference on Comparative Mythology, Institute of Archeology and Ethnology, Yerevan, Armenia, 2014.

〔図書〕(計 4 件)

吉田敦彦・松村一男編著『アジア女神大全』青土社、2011

松村一男・平藤喜久子・山田仁史編著『神の文化史事典』白水社、2012

Kazuo Matsumura, *Mythical Thinkings: What can we learn from Comparative Mythology?*, Counterschock Press, 2014.

松村一男著『神話思考 ―地域と歴史』言叢社、2014

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松村一男 (Kazuo Matsumura)

和光大学・表現学部・教授

研究者番号：78183952

(2) 研究分担者

平藤喜久子 (Kikuko Hirafuji)

國學院大學・研究開発機構 日本文化研究

所・准教授

研究者番号：50384003

(3) 連携研究者

()

研究者番号：